

平成24年度 無人化施工機械操作演習 報告書

関東地方整備局では、水防・砂防及び首都圏での大規模災害に対する危機管理能力向上を目的として、無人化施工対応遠隔操縦式バックホウを用いた、「無人化施工機械操作演習」を下記のとおり実施しました。

◆日 時：平成25年1月25日 14:00～16:10

◆場 所：関東地方整備局 関東技術事務所 船橋防災センター

◆参加者：合計 126名

関東地方整備局 21名、地方自治体職員 8名、建設業関係者 60名
報道関係者 7名、演習協力会社 30名

◆演習次第

14:00 開式あいさつ

14:05 講演「無人化施工について」

14:45 実操作演習 バックホウ3台

15:55 質疑応答

16:05 閉式あいさつ

16:10 終了

【共催】

(財)先端建設技術センター

(社)全国建設機械器具リース業協会

(一社)日本建設機械施工協会

(一社)日本機械土工協会

(一社)日本道路建設業協会

◆当日写真



(財)先端建設技術センター 技術調査部長 新田恭士氏より、無人化施工の概要、活用事例等を講演していただきました。



①西尾レントオール(株)、②(株)アクティオ、
③関東技術事務所の無人化施工バックホウ3台を用いて演習を実施しました。



3班に分かれ、機械1台に対し、20分程度演習を行い、各班全ての機械を操作出来るようにしました。



実操作では、有資格者を対象に操作体験していただきました。

◆参加者の反応等

- ・無人化施工を行う上での準備や導入背景等について知ることができ、参考になった。
- ・実機を見ることで身近に感じることができた。
- ・実機を目の前で見える機会が少なかったので操作体験を通じて技術内容がよく伝わった。
- ・最新のレンタル機を見聞でき、参考になった。
- ・緊急時に備え、年に一度無人化施工技術向上の訓練を業団体会社に対して行った方がよい。
- ・職員の演習機会を増やしてレベルアップをしてほしい。
- ・無人化施工の操作は、訓練を積む必要があると感じた。
- ・実際にガレキ等を移動する様子も見なかった。

当日は、マスコミ(新聞社5社、千葉テレビ)による取材も入り、新聞記事やテレビで演習の様子が紹介されました。

日刊 建設工業新聞 2013年1月28日(月) 4面



千葉テレビ 2013年1月25日(金) 21:00~

実操作演習時の様子(参加者が操作している様子や無人化施工のバックホウが動いている様子)が約3分間放送されました。

現状の無人化施工対応バックホウの普及・保有状況(H25.1現在)

- ・国土交通省：11台
- ・民間業者：約60台

◆今後の取り組み

今後も同様の訓練を継続的に実施していくとともに、無人化施工に関する関連団体等との意見交換を通して、取り組み方針を検討していく予定